

〈解答〉

- ① 1 (1) ウ (2) ①：百済 ②：新羅
2 (1) 記号：エ 名称：天平文化 (2) 墾田永年私財法 (3) ウ
3 (1) ア (2) 防人 (3) エ

配点 各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1(1) 稲作が盛んになると、人口が増加し水田も拡大したため、むらとむらの間で土地や水の利用をめぐる争いが生じ、やがて周辺のむらをまとめる有力な国が現れた。アは鎌倉時代、イは奈良時代、エは縄文時代の様子である。
- (2) 4世紀ごろ、大和政権は、鉄や進んだ技術を求めて朝鮮半島南端の伽耶〔任那〕と関係を深め、百済とも同盟を結んで高句麗や新羅と戦った。高句麗の好太王〔広開土王〕の功績をたたえた碑には、王が倭の軍と戦い、これを破ったことなどが記されている。
- 2(1) 東大寺の正倉院には、聖武天皇が使用していた品などの宝物が伝わっている。唐や新羅の品のほか、シルクロードを通して唐にもたらされた、インドや西アジアなどの品、それらの影響を受けて日本でつくられた品も見られる。このように、唐からもたらされた文化の影響を強く受け、貴族を中心に栄えた国際色豊かな文化を、聖武天皇のころの年号をとって、天平文化という。
- (2) 農村では鉄製の農具がさらに普及し、稲の収穫量が増えてきた。しかし、人口が増えて、口分田が不足してきたこともあり、朝廷は、人々に開墾をすすめた。743年には墾田永年私財法を出して、新たに開墾した土地であれば、開墾した者が永久に所有することを認めた。
- (3) 一般の農民には広い土地を開墾する力はなく、実際に開墾ができたのは、中央の貴族や寺院、地方の豪族、一部の有力な農民たちであった。これらの人々は、貧しい農民を従えて盛んに開墾を進め、所有地を広げていった。
- 3(1) 万葉集は、奈良時代の末に大伴家持がまとめたとされる和歌集であり、柿本人麻呂や山上憶良などの歌人、天皇や貴族、防人や農民などがよんだ和歌が約4500首収められている。
- (2) 防人は、九州北部の防備にあたった兵士のことで、663年の白村江の戦いの敗戦以降に整備された。大宝律令の制定によって軍団兵士制が確立すると、防人はその中に組み込まれ、諸国軍団兵士の中から派遣されることになったが、実際にはほとんどが東国出身の兵であった。
- (3) 古今和歌集は、平安時代の905年に醍醐天皇の命令で、紀貫之らによりまとめられた和歌集である。エ935年、平将門が、朝廷の政治に不満を感じて、周辺の武士団を率いて反乱をおこした。ア1167年、平清盛が武士として初めて太政大臣になった。イ1336年、足利尊氏は京都に新たに天皇を立て、後醍醐天皇は吉野

(奈良県)に逃れ、二つの朝廷が生まれた。ウ701年、唐の法律にならった大宝律令がつくられ、全国を支配するしくみが細かく定められた。